

1 日 時 平成14年10月24日(木)13:30～15:00

2 場 所 岡山市勤労者福祉センター 4階 大会議室

3 出席者 別紙委員名簿を参照(9名出席)

4 傍聴者 0人

5 会議の概要

「障害者福祉計画」の今後のスケジュール、現在計画の進捗状況、アンケート調査結果について事務局からの説明の後、計画の骨子・体系について自由に意見をいただいた。

6 主要な意見

小学生年齢までの方は療育手帳をもっていない人が圧倒的に多く、そういう人達に対する発達援助、福祉サービスなどきめ細かな支援が必要である。

小さいうちから学びの場の中で、障害をもっている子供とそうでない子供が共に学んでいくということが大事である。

地域の中で助け合う、支え合う、人間関係を結ぶということができていないときだから、教育で人間関係づくりの力をつけていく必要がある。

障害児教育を受けている障害のある人たちにもっときめ細かい温かい交流をするべきである。

交流が教育の場で不十分なら、福祉の中で交流ができるように、福祉の中でも人を育てていかなければならない。

生まれたときからの情緒障害もあれば後天的な情緒障害もあり、そういうものがミックスしながら思春期にいろんな問題や行動化が起こっている。単に教育さえしっかりすればいいという問題ではない。支援策を計画に織り込んでいただきたい。

精神障害者の福祉サービスの利用が少ない。利用したいニーズはあるが実態からして情報提供を充実していく必要がある。

障害の重度の人には、ケアプランをたてるべきだと思う。